

資料 1-2	令和 5 年 11 月 20 日
	第 32 期青少年問題協議会 第 3 回専門委員会

【参考】 平成 30 年度 ヒアリング調査結果概要

以下に、ヒアリング項目ごとの回答内容を掲載しています。ヒアリング調査によって、アンケート調査では把握の出来ない子どもの実態や要望について確認できました。

1 居場所・ホッとできる場所

(1) 放課後過ごす場所はどこか。

「子どもの居場所」でのヒアリングでは、小学生は校庭や公園、子どもスキップで遊んだり、習い事に通っている、中学生以上は部活動に参加するという回答が多く見られました。一方「困難を抱える子どもを支援する団体・施設」では、「まっすぐ家に帰る」という回答もみられ、「不登校・ひきこもり（または経験のある）の子ども」は「学校に行かずに家にいる」という回答もありました。

(2) 過ごしていてホッとする場所はどこか。

自宅やヒアリング実施施設をあげる回答が多くみられましたが、図書館や飲食店やゲームセンター、公園など、自身が好きなことを出来る場所をあげる子どもも多くいました。

また、場所に関わらず、友だちと一緒にいることがホッとすることに繋がるという回答もありました。

2 学校に関すること

(1) 学校は楽しいか。

「楽しい」と回答した子どもが多数でした。中には、「自分の苦手な教科の日には学校に行きたくなくなる」、「勉強や宿題がなければ楽しい」といった回答もありました。

「不登校・ひきこもり（または経験のある）の子ども」については「楽しくない」「行きたくないと思っていた」という回答が見られ、「学校の授業には出ず保健室登校していた」という子どももいました。

また、「義務教育という言葉の束縛感が辛くて不登校であった」「学校のクラスの結束感が強くてしんどかった。居場所を固定されたような感じが苦手だった。」と学校に行かない具体的な理由をあげる子どももいました。

(2) 学校に何でも話せる友だちがいるか。

ほとんどの調査対象においても「いる」という回答が多数でしたが、「不登校・ひきこもり（または経験のある）の子ども」では、「以前は仲が良かった子がいるが、今はいない」「学校以外にはいる」という回答が見られ、他の調査対象と比較して学校に何でも話せる友だちが少ない傾向がありました。

その他の調査対象でも、「だいたい話せる友だちはいるが、何でもは話せない」「相手によって話すことは分けている」という回答がありました。

また、「多様な性自認・性的指向の子ども」では、友だちでなくスクールカウンセラーに何でも話すという回答がありました。

(3) 学校の休み時間や放課後に安心して過ごしているか。

「安心して過ごしている」という回答が多く、具体的には外遊びやスポーツ、読書や絵を描いて過ごす子どもが多く見られました。ただし、「休み時間は必ず校庭に出なければならない」と回答した子どももあり、必ずしも休み時間に自分の好きなことが出来ているとはいえないことが覗えました。

3 子どもの社会参加や意見表明に関すること

(1) 周りの大人に言いたいことを言えているか。また周りの大人はそれを聞いてくれるか。

「言えている」、また「大人に言ったことを聞いてもらえる」という回答が大半でした。

しかし、「母に話すと説教のように話が長くなるので言いにくい」「スキップで話したことが学校に報告されるのを懸念している」「家では言っているが、学校では面倒だと思い飲み込むことがある。」と、話す相手の様子などから言うことをためらっている子どももいることが見受けられました。

「不登校・ひきこもり（または経験のある）の子ども」では、「学校では仲が良い人がいないので畏まっていて、家では言う」「言うが、先生に反論されて喧嘩になる」という回答もありました。

「中高生センタージャンプ」では、「中学校のとき不登校だったが、先生が高圧的かつ一方的な態度で、あまり自分の気持ちを言えなかった。一緒に前向きに考えてくれると良かった」と自分の言いたいことを言えなかった具体的な体験を話す子どももいました。

また、何人かの子どもに「学校で決められているルールについて子どもが意見を言えるか」を聞くと、「意見を言う機会はない」という回答が多く見られました。子どもたちの様子から、学校のルールについて意見を言うという考えがあまりないことも覗えました。

(2) 地域の行事に参加しているか。

「参加している」という回答が多数であり、参加している行事としては「地域のお祭り」「神輿」「餅つき」をあげる子どもが多く見受けられました。「不登校・ひきこもり（または経験のある）の子ども」では、他のヒアリング対象よりも「参加していない」という回答が多く見られました。

また、「中高生センタージャンプ」では「参加していなかったが、不登校など同じ悩みをもつ人同士が集まって話せる場所があれば行っていたかもしれない」という回答もありました。

4 虐待やいじめなど、周りの大人や友人との関係に関すること

(1) 周りの大人から嫌なことをされたことがあるか。

「ない」と回答した子どもが多数でした。

しかし、「子ども食堂」では、「父親が母親を叩いているのを見たことがある」「父親によく叩かれる。『ばか』『間抜け』などと言われる」、「多様な性自認・性的指向の子ども」では、「悪気があったわけではないが傷つく言葉を言われたことがある」「自分の思っていることを言った時に否定的なことを言われて傷ついた」「基本的に嫌なことはされないが、親は怒るとたまに物を投げてくる」などの経験をあげる子どももあり、全体から見れば少数ながらも大人から嫌なことをされたことのある子どももいました。

また、「プレーパーク」では、「学校の先生にいじられていることを話そうとしたところ、話す前から『そのことは受け付けられない』と言われてしまった」という学校での経験を話す子どもがいました。

(2) 友だちや先輩・後輩から嫌なことをされたことがあるか。

「ない」という回答が大多数でした。

ただ、「子ども食堂」では、「小学生のときにクラブ活動でいじめられていた」、「外国ルーツの子ども」では、「過去に悪口を言われていたが先生に言って解決した」など、過去に嫌なことをされた経験をあげる子どももいました。

「多様な性自認・性的指向の子ども」では、「先輩から名前を馬鹿にされた」や部活動内でのトラブルといった、学校内での友人関係のトラブルをあげる子どももいました。

5 悩みや不安、相談に関すること

(1) 悩んでいることや不安に思っていることがあるか。

「ない」と回答した子どもが多数でしたが、学力や進路、将来のことについての不安をあげる子どもも多く見られました。また、「子ども食堂」では「容姿を笑われる」「学校で嫌なことがあり、父親に話そうとしたら逆に怒られた」、「障害を抱える子ども」では、「算数の九九が覚えられない」「ものを考えるときや書くとき、困ってしまう」という回答もありました。

また、「外国ルーツの子ども」では日本語での勉強や漢字に不安があり、そのことから進学にも不安があるという回答がありました。「多様な性自認・性的指向の子ども」では、「親に秘密で買っているセクシャルマイノリティ関係の本が本棚に入りきらなくなり、親にばれそうになっている」という回答が見られるなど、抱えている事情により異なる悩みや不安が覗えました。

(2) 悩みがあるとき、誰に相談しているか。

母親に相談しているという回答が最も多く、ヒアリング実施施設・団体の職員や友だちに相談するという回答も多く見られました。

「多様な性自認・性的指向の子ども」では、スクールカウンセラーに相談するという回答のほか、SNS 上で悩みをつぶやいたり、インターネット上の知り合いに相談するといった回答も見られました。

「中高生センタージャンプ」では、「誰にも相談せず、自分のことは自分で決める」という回答もありました。

(3) 子どもの相談を受け付ける区の施設や窓口で、知っているところはあるか。

「知らない」という回答が多数でした。「学校の配布物に記載された相談窓口は知っている」という回答もありましたが、具体的な相談窓口名はあがりませんでした。

「多様な性自認・性的指向の子ども」では相談電話を利用したことがある子どもがおり、「東京都の窓口か豊島区の窓口か分からないが親身に聞いてくれた」と好印象を持っていました。

対して、「子ども食堂」では「区役所に相談しても何も変わらず、逆に差別されそう」という回答もありました。

(4) 悩みや不安を相談する場合、どのようなところなら利用しやすいか。

相談形式については、「秘密が守られるから1対1が良い」「重苦しい空気が嫌だし、相談相手が複数人いた方が答えが出る可能性が高いから1対1ではない方が良い」と、子どもによって異なる意見が見られました。

「不登校・ひきこもり（または経験のある）の子ども」では、「堅苦しくないところが良い」「学校の先生に相談するとなると学校で相談しないといけないので抵抗があり、学校の先生は怒らせると怖いイメージがある。保健室の先生はあまり先生という感じがしなくて話しやすい」、「虐待・DVなどの被害を受けた子ども」では「自分が信頼している人が信頼する人なら話しやすい」、「中高生センタージャンプ」では「不登校の子に通信学校等のいろいろな選択肢を教えてください、一緒に考えてくれるところが良い。学校ではない場所だと話しやすい」という回答がありました。

その他、「多様な性自認・性的指向の子ども」では知識をもった専門家などによる相談を望む回答がありました。

6 自己肯定感に関すること

（１）自分のことは好きか。

「好き」「まあまあ好き」「普通」という回答が多く見られました。自分のことが「嫌い」と答えた子どもは、多くは自分の性格が嫌いと感じているようでしたが、中には「明確に嫌いなところは分からないが、なんとなく嫌い」という子どももいました。「多様な性自認・性的指向の子ども」では、自分の身体のことを嫌いとは回答した子どももいました。

（２）毎日は楽しいか。

「楽しい」と回答した子どもが多数でした。「楽しくない」と回答した子どもは、理由として、「毎日が同じで退屈」「学校がある日が楽しくない」「友人関係の悩みが多くて辛い」ことをあげていました。

（３）自分が親や友だちなど、周りの人から大切にされていると感じるか。

「大切にされていると感じる」という回答が大半でした。大切にされていると感じる具体的な場面は思いつかない子どもが多数でしたが、中には「親から『大切な存在』だと言葉で言われる」「自分が悲しい時に声をかけてもらえると大切にされていると感じる」など、具体的な言葉や場面で実感している子どもも少数ながらいました。

また、「不登校・ひきこもり（または経験のある）の子ども」では、大切にされていると感じながらも「親が過保護である」という回答も見られました。

7 豊島区の施策に関すること

（１）「豊島区子どもの権利に関する条例」を知っているか。

いずれの調査対象においても、「知らない」という回答が大半でしたが、少数ながら「学校で配られた条例のリーフレットは見たことがある」という子どももいました。また、小学校低学年の児童については、「権利」という言葉自体の意味がよく分からない子どももおり、「子どもの権利」や本条例については子どもに理解できるように周知していく必要があることが窺えました。

(2) 区役所にやってほしいことは何か。

いずれの調査対象でも共通して、施設の整備や設備の充実を望む回答が多くありました。具体的には、「アミューズメント施設やレストランを家の近くにつくってほしい」「プールや体育館など、運動が出来るところをつくってほしい」「公園を増やしてほしい」「公園にバスケットボールのゴールを設置したり、ボール遊びを出来るようにしてほしい」といった回答が多くみられました。

学校に関することとしては、「学校の登校時間を遅くしてほしい」「学校のルールを無くしてほしい」といった、学校の規則に関する回答や、「体育館に冷房をつけてほしい」という回答がありました。

また、「プレーパーク」では「毎日火を使えるようにしてほしい」や「電気やWi-Fiを使えるようにしてほしい」、「子どもスキップ」では「子ども会議に出席できなかった人の意見も聞いてほしい」「高学年はスキップに遊びに来ているのに、低学年の子の面倒を見に来なければならない」「スキップは学校内にあるため皆が集まりすぎてしまう。ジャンプのように高学年でも友だち同士で話が出来るところがほしい」など、自身が利用している施設に関する要望や意見もありました。

その他、「中高生センタージャンプ」では「不登校のときに話を聞いてほしかったので、聞いてくれる場所がほしい」「社会人と繋がることが出来るなど、将来に繋げることができる場があったらよい」「(不登校など)同じ体験をした人からの話を、悩んでいる子に学校を通して聞かせてほしい。怒ったり叱ったりすることで解決しないでほしい。」という回答がありました。

「多様な性自認・性的指向の子ども」では、「同性婚が出来るようにしてほしい」「喫煙を取り締まってほしい」「中高生世代が気軽に行って、集まれる場所がほしい」という要望が見られました。

また、「区役所が何をやっているか分からないので特に無い」と回答した子どもも一定数いました。

(3) 自分自身がやってみたいことは何か。

いずれの調査対象にも共通して、自分の趣味に関すること、進路に関すること、将来の夢に関する話を話す子どもが多数でした。また、「プレーパーク」では、「もっと遊びたい」「プレーパークにずっと残る物をつくりたい」「プレーパークに動物を連れてきて、遊びたい」など、他のヒアリング実施施設より多く意見を言う子どもがいました。